



もしかして、食物アレルギー？ と思ったら、まずは医師に相談

ステップ 1

●アレルギーを知る

1 問診 症状が出た時の様子を詳しく伝えましょう。

2 検査 ●血液検査 ●皮膚検査 があります。
IgE抗体があるかどうかを調べます。

アレルギーを正確に知るには
3 食物経口負荷試験 が必要です。
実際に食べてみてアレルギー症状が出るかを調べる検査です。
*一定の基準を満たした医療機関で行われています。かかりつけ医に
紹介状を書いてもらって受診しましょう。

4 診断確定 除去が必要かどうかが決まります。



ステップ 2

●安全な学校生活を送るためには・・・

学校生活管理指導表 を書いてもらい、学校へ提出します。

提出された学校生活管理指導表を基に学校(共同調理場)と面談を行い、給食の対応を検討します。
学校は**安全を最も重視した対応**を行います。

家庭では

●かかりつけ医と相談しながら行いましょう。

- 栄養不足で健康や成長に影響が出ないように、家庭での除去は最小限にとどめます。
- 少なくとも年に1回は見直しを行い、食べられるようになった食品は制限を解除していきましょう。
- 一般的には、乳幼児期に発症した食物アレルギーの約90%は、6歳までに治ると言われています。

万が一、学校でアレルギー症状が出た場合の判断と対応

軽い症状の場合

〈処方されている内服薬〉
抗ヒスタミン薬
気管支拡張薬
経口ステロイド薬



重い症状の場合

処方されている
アドレナリン自己注射薬
(エピペン®)



- 県の食物アレルギーに関する調査結果(令和元年5月1日現在)では、学校給食を食べている児童生徒のうち、**エピペン®を所有する割合は、小学生は約0.5%、中学生は0.2%**です。

- 学校では、食物アレルギーに関する基礎知識のほか、エピペン®を正しく扱えるように、**研修**を実施しています。

学校でエピペン®を使用した場合は
必ず救急車で医療機関を受診します。



お問い合わせ先

愛知県教育委員会 保健体育課
☎ 052-954-6839 (ダイヤルイン)

